

誕生祝い品安全性の指針

【木材】

使用する樹種によって異なりますが、針葉樹の場合は繊維が長く角が荒れやすいため、面取りは大きめに考え、木表面に晩材がむき出るとは晩材が剥がれることに注意する必要があります。広葉樹の場合、面取りは針葉樹とくらべて小さくすることができると思えることができますが、堅い木になると角の尖りが危なくなるため慎重に考える必要があります。

* 昆虫の穴・腐れを避ける

* 死節を避ける。生節でも節が取れないかよく注意する

* 樹皮は使用を避ける

* 面取りすることで“ささくれ”が起こらないようにする

※ サンドペーパーで仕上げる場合、広葉樹は#220以上・針葉樹は#280以上が望ましい

※ 針葉樹はR3以上の丸面又は幅3mm以上の角面が望ましい

【製品のサイズ】

誤飲を防ぐため単体でのサイズが以下の寸法を下回らないようにします。

* 直径40mm以上であること（積み木の最小サイズは40mmと考える）

* もしくは長さ51mm以上とする（その場合でも直径は15mm以上が望ましい）

モビールなどの手に触れないおもちゃについては別途仕様を考慮する必要があります。

【塗料】

食品衛生法の基準を満たしている物や自然塗料もしくは天然オイル系のワックスを推奨します。天然オイルであっても胡桃油などはアレルギー反応を起こす懸念もあるため注意が必要です。

よく乾かして塗膜ができるものが望ましく、オリーブオイルや椿油などの不乾性油は手で触れていくうちに塗装が落ちてしまうので推奨できません。

歯固めなど口にくわえることを前提としたおもちゃへの塗装は不要と考えます。

【接着剤】

基本的に硬化した接着剤がむき出しにならないように施すことを前提とします。

耐水性がある接着剤を推奨します。

【穴や隙間の仕様について】

穴については、「指が入って抜けない・拳が入って抜けない」という問題が懸念されることから、以下の指針を設けます。

① 直径8～12mmの穴は避ける（指が入って抜けなくなるおそれ）=8mm以下、12mm以上が望ましい

※ ただし、深さ5mm程度までの場合、直径8～12mmの穴でも問題ないとする

※ リング状に貫通した穴もこの径は避けるようにする

② 直径 38～42mm の径は避ける(こぶしが入って抜けなくなるおそれ)

※ただし、深さ～20mm 程度までの場合、直径 38～42mm の穴でも問題ないとする

※リング状に貫通した穴もこの径は避けるようにする

隙間については、「挟む・切る」といった問題が懸念されることから、以下の指針を設けます。

5mm 以下または 12mm 以上とし、5mm 以下であっても必ず面取りして角が鋭利にならないようにする。

なお、ラトルや歯固めの場合、隙間に歯が引っかからないような間隔にする。

【紐や異素材の使用について】

おもちゃのジャンルによって異なりますが、プルトイの場合（18 ヶ月未満を想定）では、以下の通りの指針を設けます。

*太さ 4mm 以上が望ましい

*長さ 220mm 未満が望ましい

モビールなどの直接手で触れないおもちゃは 1.5mm 以上の太さを推奨します。

ラトル又は口に含むことが想定されるおもちゃは化繊素材を採用し 4mm 以上を推奨します。

(※化繊は天然素材に比べて乾くのが早いため)

引張強度の試験の参考として、ラトル又は口に含むことが想定されるおもちゃの場合は 70N (7kg)の重さを 10 秒維持できるか確かめます。この他の仕様については各ジャンルによって必要とする強度が異なるため、実物による判断と試験が必要になると考えられます。

ビー玉 ビー玉どうしが触れるものは割れる恐れがあるため避けるようにします。

ビーズ 噛む・舐める要素が含まれるもの、又は予想される時期(乳児～2 歳くらい)には破損や逸脱して誤飲のおそれがあるため使用を避けるようにします。それ以上の年齢を対象としたものの場合、「人形の目」などのように埋め込みでの使用することが望ましいです。

布 噛む・舐める要素が含まれるもの、または予想されるものには使用を避け、単体で付属させるものについては飲み込んでしまうサイズにならないようにします。

自然素材 クルミの実アレルギー反応を起こす可能性があるため避ける。その他の木の实についても誤飲や衛生面での懸念があるため、仕様にもよるが推奨できません。

金属類 例えばラトルなどで金属音を出すために採用することも考えられますが、パーツがむき出しになる仕様は避け、接合部などへの使用も避けるようにする。

安全性の指針 お問合せ先

文化振興課 芸術文化振興班

担当：伊藤

TEL：0184-74-8034